

書誌第104号追

# 北海道沿岸水路誌

追補第6

令和5年（2023）2月17日発行



海上保安庁

# 北海道沿岸水路誌

## 追補第6

この追補は、平成31年3月刊行の北海道沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和4年12月16日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和5年2月17日

海上保安庁海洋情報部

## 注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
76	室蘭港	
76-1	室蘭港	
87	苫小牧港	
122	羅臼港	

## 室蘭港 (42° 21' N 140° 58' E) (海図W16) (JP MUR)



(2017年8月撮影)

**港種** 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、国際拠点港湾

- 5 **概要** 内浦湾の東側にある港で、港域内は第1区～第3区の3港区及び航路に分かれている。この港は幅約1～2M、湾入約4Mの天然の良港であるが、港口が北西方に開いており、また、港の東側が低い平地のため、西風の強吹時には港内でもかなり波立つ。

タンカー及び鉱石船などの入港が多く、貨物取扱量は道内第2位で苫小牧港に次いでいる。

強風は冬季(11月～翌年2月)に集中し、西寄りの風速10m/s以上の日は、月平均10～15日以上に及ぶ。

- 10 **潮汐** この港における平均高高潮は1.4m、平均低低潮は0.4m、平均水面は0.95mである。

**副振動** 約53分間を周期とする海面の昇降があるが、その昇降が10cmを超えることはまれである。

**海水** 1987年に港内の一部が結氷したことがある。

**目標**

地物名	概位	備考
煙突	42° 21.0' N 140° 58.9' E	高さ79m、灰色
煙突	42° 21.2' N 140° 59.9' E	高さ55m
イヨシサンベ	42° 20.2' N 140° 57.1' E	高さ140mの円すい形の山
煙突	42° 20.6' N 140° 59.3' E	高さ154m、赤白塗、煙突群の西端
煙突	42° 21.9' N 140° 56.9' E	高さ185m
風力タービン	42° 20.7' N 140° 56.5' E	高さ100m、白色
風力タービン	42° 19.6' N 140° 58.9' E	高さ100m、白色
風力タービン	42° 19.6' N 140° 59.1' E	高さ120m、白色

- 15 **通信** 船舶と港長との間で、「ほっかいどうほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数(呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
ほっかいどうほあん HOKKAIDO COAST GUARD RADIO	ch16/12	常時	室蘭海上保安部

**水先** 室蘭水先区水先人会に要請する。(第1編 総記 第6章 水先、14ページ参照)。

**入港上の注意** 北外防波堤東側沿いの生けすや西方の養殖施設、ニマ岬(42° 20.1' N 140° 55.8' E)西方の養殖施設に注意を要する。

夜間は、導灯、灯浮標及び南、北両防波堤灯台の灯火が後背地の灯火に紛れて視認しにくいことがある。

港内には錨泊船が多く、航路を航行する際、見通しの悪い場合がある。また、航路東端部付近では、日本製鉄ふ頭への出入船と第1区南部の各ふ頭に出入する船舶とが交差するので、注意を要する。

**錨地** 検疫錨地は第3区の港界付近(42° 36.4' N 141° 36.0' E)にあり、危険物積載船は第4区に錨泊しなければならない。

### 港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考	
北ふ頭1・2号岸壁	42° 38.5' N 141° 37.3' E	延長 260	7~7.5	5,000×2		
北ふ頭3・4号岸壁	42° 38.6' N 141° 37.5' E	延長 180	4.5	2,000×2		
東ふ頭3~6号岸壁	42° 38.5' N 141° 37.6' E	延長 571	7~9	10,000×4		
西ふ頭1~4号岸壁	42° 38.3' N 141° 37.4' E	延長 660	8~9	10,000×4		
南ふ頭1・2号岸壁	42° 38.0' N 141° 37.5' E	延長 370	10	15,000×2		
南ふ頭3号岸壁	42° 37.9' N 141° 37.5' E	195	11	20,000×1		
入船ふ頭岸壁	42° 38.3' N 141° 37.7' E	延長 330	14	40,000×1		
晴海ふ頭	1号岸壁	42° 38.6' N 141° 39.2' E	240	12	30,000×1	
	2号岸壁	42° 38.5' N 141° 39.1' E	240	12	30,000×1	
	3号岸壁	42° 38.5' N 141° 38.9' E	170	10	10,000×1	
中央北ふ頭	1号岸壁	42° 38.7' N 141° 39.7' E	185	10	15,000×1	
	1号東岸壁	42° 38.8' N 141° 39.8' E	240	12	30,000×1	
	2~4号岸壁	42° 38.9' N 141° 40.2' E	延長 329	7.5	5,000×3	
	<del>本材ドルフィン</del>	<del>42° 38.9' N 141° 40.0' E</del>	<del>220</del>	<del>10</del>	<del>15,000×1</del>	
中央南ふ頭	西岸壁	42° 38.6' N 141° 40.0' E	165	9	10,000×1	
	1号岸壁	42° 38.6' N 141° 40.2' E	240	12	30,000×1	
	2号岸壁	42° 38.6' N 141° 40.3' E	240	12	30,000×1	
	3号岸壁	42° 38.7' N 141° 40.4' E	130	7~8	5,000×1	
勇払ふ頭	1号岸壁	42° 39.0' N 141° 41.5' E	280	12	30,000×1	
	2号岸壁	42° 39.1' N 141° 41.7' E	185	10	15,000×1	
	3・4号岸壁	42° 39.1' N 141° 41.9' E	延長 260	7.5	5,000×2	
	5号岸壁	42° 39.3' N 141° 41.8' E	240	12	30,000×1	
	6号岸壁	42° 39.4' N 141° 41.8' E	165	9	10,000×1	
中央ふ頭2号岸壁	42° 36.5' N 141° 46.9' E	360	14	30,000×1		
中央ふ頭3号岸壁	42° 36.7' N 141° 47.0' E	360	14	50,000×1		
周文ふ頭2号岸壁	42° 36.7' N 141° 49.2' E	240	12	30,000×1		

上表のほか、西港区(西港)及び東港区(東港)とも各会社専用の係船施設が多数ある。

5

**架空線** 中央北ふ頭4号岸壁の東側から苫小牧ケミカル岸壁へ、水路を横断する架空線(高さ55m)がある。

### 最大入港船舶

10

西港区(西港)内 2019年9月12日、客船 飛鳥II(50,142t、喫水8.1m)が入船ふ頭岸壁に着岸した。  
2015年2月11日、タンカーC. INNOVATOR(164,533t、喫水20.5m)が出光北海道シーバースに着岸した。

東港区(東港)内 2015年7月19日、タンカーTSURUGA(160,068t、喫水14.4m)が北海道石油共同備蓄棧橋に着岸した。

15

**台風・津波対策** 台風・津波等による海難事故を防止するため、苫小牧海上交通安全協議会 苫小牧港地震・津波・台風等対策委員会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・

羅臼《ラウス》港 (44° 01' N 145° 12' E) (海図W1402) (JP RAU)



(2020年9月撮影)

5 港種 港則法適用港

概要 知床半島東岸で船舶が利用できる唯一の港である。サンマ漁期中は太平洋からオホーツク海に回航する50t以上の漁船も利用することがある。

南、北側の船だまりに分かれており、南側船だまりの南西側を第1澗《マ》内、北東側を第2澗内、北側船だまりを第3澗内と称している。

10 潮汐 この港における平均高高潮は1.0m、平均低低潮は0.3m、平均水面は0.64mである。

目標

地物名	概位	備考
著屋	44° 01.3' N 145° 11.8' E	漁業協同組合、屋上に無線柱(高さ約30m)がある。
架橋	44° 01.1' N 145° 11.6' E	オジロ橋、橋の両端に水銀灯がある。

針路法 港の南、北両側には、定置網があり、定置網を避けるには、距岸1M以上の沖合から、羅臼港第2南防波堤灯台を270°~298°に見て接近し、南島防波堤南西端沖から入港する。

15 港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	備考
-3.5m岸壁	44° 01.1' N 145° 11.7' E	105	3.5	第1澗 《マ》内
-4m岸壁	44° 01.2' N 145° 11.7' E	60	3	
-3m岸壁	44° 01.2' N 145° 11.8' E	108	3以下	
-3m岸壁	44° 01.2' N 145° 11.9' E	100	2.5	第2澗内
-4m岸壁	44° 01.3' N 145° 12.0' E	延長225	2.5~4	
-4.5m岸壁	44° 01.3' N 145° 12.0' E	144	4~7	第3澗内
-4m岸壁	44° 01.4' N 145° 12.1' E	317	3.5~4.5	
中央ふ頭	44° 01.2' N 145° 12.1' E	100	8.5	北東端

台風・津波対策 台風・津波等による海難事故を防止するため、羅臼港異常気象等対策協議会が設置されており、在港船舶などに対し、情報の伝達及び警戒体制・避難・入港制限の勧告・解除等の災害防止措置を指導している(問合わせ先:羅臼海上保安署 TEL 0153-87-2274)。